

平成 24 年度第 15 回

県政知事懇談

湯崎英彦の地域の宝 チャレンジ・トーク

と き 平成 25 年 3 月 23 日 (土)

ところ 世羅町甲山保健福祉センター

広 島 県

目 次 頁

開 会	1
知事挨拶	1
事例発表者紹介	2
事例発表①	3
事例発表②	8
事例発表③	13
事例発表④	16
閉 会	20

開 会

(司会 (八幡))

皆さん、こんにちは。

大変長らくお待たせをいたしました。ただ今から「湯崎英彦の地域の宝チャレンジ・トーク」を開催いたします。

私は、広島県広報課の八幡と申します。

本日は、皆様とともに、チャレンジに向けて元気の出る楽しい会にしたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

知事挨拶

(司 会)

それでははじめに、湯崎英彦広島県知事が皆様に御挨拶を申し上げます。

(知事 (湯崎))

皆様、こんにちは。今日は土曜日でお休みの方も多いと思うのですが、こんなに天気がすばらしくいいときに、こうやってお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

今日は県政知事懇談会チャレンジ・トークということで世羅町に参らせていただきました。かわいい子どもさんも来ていただいて、ありがとうございます。既に発表者の方に並んでいただいておりますが、世羅町で、職場、学校あるいは地域、いろいろなところでいろいろなことに取り組んでいただいている皆さんに発表いただく予定にしております。

この県政知事懇談会は3巡目を行っているところですが、平成22年に世羅町に一度来させていただきました。その後は尾道の方でやらせていただいて、世羅町はそちらに含まれるという形だったのですが、今回はまた世羅町に来させていただいて、大変うれしく思っております。

また、今回の開催には、奥田町長をはじめとして、世羅町の皆様に本当にお世話になっております。この場をおかりしてお礼申し上げます。

これまでの3巡の懇談の中で本当にたくさんの皆さんの御意見をいただきました。398人の方に御参加いただいて、発表いただいております。今日で400人を超えます。また、こうやって聴衆として御参加いただいた方が今回で5,000人を超えるというような形になっていまして、積み重ねて来たものの成果だと思っています。

皆様からいただいた御意見を味噌樽に詰めてお味噌にしますと、ずっと言ってきたので

すけれども、本当にいいお味噌がいい具合に発酵してきて、県庁のおいしい調味料になってきたと思っています。いろいろなことで実際に政策に取り入れさせていただいたこともございますし、そうでなくても、日頃の行政運営をしていくに当たって、いろいろと考える原点にさせていただいたりしております。これも皆様のおかげでございますので、この場をおかりしてお礼申し上げたいと思います。

今日は、この後、発表者の方に発表いただきますけれども、いつもそうなのですが、それぞれ各地域ですばらしいチャンレジをされていらっしゃる方の発表です。そのすばらしいというのも、終わってもう一度まとめるときに改めてお感じいただけるのではないかと思いますけれども、特別なことではなくて、少しずつ頑張る、少しずつ何かに取り組むことによって大きな違いを生んでいることがございます。そういったことを今日はまた皆さんと共有できて、明日以降の糧になったらと思っております。約 70 分強のお時間になりますけれども、どうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございます。

(司 会)

湯崎知事、ありがとうございました。壇上の席にお移りください。

事例発表者紹介

(司 会)

それでは、本日の事例発表者の皆様を御紹介いたします。発表者の皆様は壇上にお上がりください。それでは皆様に御紹介いたします。

はじめに、御夫婦で世羅町に移住され、ブドウ農家になることを目指して挑戦中の世羅産業創造大学受講生のラピアゲータンさんと、ラピア幸恵さん御夫妻です。

続いて、町民の方に「世羅町で子育てできて良かった」と言ってもらえるように活動をされている「世羅町で楽しい子育てを考える会」実行委員長の徳光紗代さんです。

続いて、部活動や新たな商品開発、そしてボランティア活動などを通じて、地域の活性化に取り組んでおられる世羅高校 2 年生の景山鈴音さん、中山朝日さん、東杏樹澪さんです。

そして最後に、ハワイへの海外研修を通じて多くを学び、日々の学校生活においても自主性を高めるよう取り組まれている世羅西中学校 2 年生石橋夏海さんです。

どうもありがとうございました。事例発表者の皆様はお席にお戻りください。

それでは、ここからは湯崎知事にコーディネーターをお願いしたいと思います。それでは、湯崎知事、どうぞよろしく願いいたします。

事例発表

事例発表①

(知 事)

改めまして、よろしくお願ひいたします。それでは早速発表に入りたいと思います。

まずはじめに発表いただきますのは、世羅産業創造大学受講生のラピアゲータンさんとラピア幸恵さん御夫妻です。

改めてラピアさん御夫妻の御紹介をさせていただきますと、御夫妻は去年の4月に世羅町に移住をされ、夫婦で世羅産業創造大学へ入校されました。今月末に卒業されるわけですが、この卒業までブドウ栽培の研修を受けていらっしゃいます。卒業後は、世羅町で農地を取得して、ブドウ農家になることを目指して挑戦をされています。

今日の発表のテーマは、「ぶどう専門農家を目指して」です。それでは、ラピアさん御夫妻、よろしくお願ひいたします。

(事例発表者 (ラピアゲータン))

はじめまして。ただいま御紹介にあずかりましたラピアと申します。本日はお忙しい中、お越しいただきありがとうございます。

(事例発表者 (ラピア幸恵))

私たちはブドウの専門農家になるために、平成24年4月に世羅に移住してきました。

簡単に自己紹介させていただきますと、主人はカナダ出身で、私は広島市出身。2人が出会ったきっかけは、2008年4月、日本を旅行していた主人に、私がボランティアで広島市を案内したことです。初対面とも思えないぐらい初日から意気投合し、約3年の交際を経て結婚することとなりました。

しかし、一番の問題は、どちらの国に住むかということでした。どうしても日本に住みたかった私は、主人に「とにかく夫婦と一緒に働けるのなら、私は何でもする。だから、日本に住もう」と言いました。そしたら、主人からは「農業がしたい。ブドウ農家になれるのなら、日本に住んでもよい」という予想外の答えが返ってきました。今、思えば、何でもするだなんて言わなければよかったと思いますが、そのときから私たちは農業未経験者であるにもかかわらず、ブドウ専門農家になることに意識を集中し始めました。

(ラピアゲータン)

しかしながら、この決断は決して簡単なものではありませんでした。この決断を両親に伝えたとき、両親はとても悲しみました。しかし、父は私に、みんな自分の人生を生きていかなければいけないし、そのためには、ときにはつらい決断をしなければいけないとき

もある。おまえが日本に行ってしまうのはとても寂しいけれども、どこに住んでいても、何をしていても、おまえが幸せなら私達も幸せだと言ってくれました。

(ラピア幸恵)

そして、カナダを出国する日、私は空港で主人の両親に「何があっても、ゲータンは私が全力で守りますので、ゲータンのことは任せてください」と約束しました。

そして、2012年2月、日本に帰国し、4月に夫婦で世羅へ移住し、新たな人生の幕開けとなりました。

では、なぜ主人はそもそも日本に興味を持ち、なぜブドウ農家になりたいと思ったのかについて、簡単に説明させていただきます。

(ラピアゲータン)

そもそも、私が日本に興味を持った一番のきっかけは、1998年の長野オリンピックでした。テレビを通して日本を見て、とても興味を持ったので、大学在学中に日本の文化クラスを受講し、日本を実際に旅行してみて、人の優しさ、日本風景の美しさに完全に魅了され、もっと日本を知りたくなりました。そして、ワーキングホリデービザで英語教師として日本に1年間滞在し、より日本が好きになりました。

私は日本のブドウを食べたときに、そんなおいしいブドウがこの世にあったのかと初めて知り、日本のブドウに興味を持ち始めました。

(ラピア幸恵)

そして、世羅町を選んだ理由ですが、農業未経験者でも新規就農の受入れしてくれるところはないかどうか調べるため、私は広島県の全市町村の役場及び市役所にメールを送りました。しかしながら、どの役所からも、未経験者の受入れはありませんと、話すらも聞いてもらえない状態でした。しかし、唯一話を聞いてくださったのが、当時、世羅町役場で窓口となっていた向原さんでした。向原さんをはじめ、その他の役場の方々の真摯な対応に、私達はここなら新規就農するのに最適な場所だと確信し、世羅町に決めました。

今、思えば、役場の方々のあのときのすばらしい対応がなければ、今の私達はないと言っても過言ではありません。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、新規就農者のための世羅町担い手育成協議会主催の世羅産業創造大学という座学研修を行う大学にも入り、農家になるための基礎知識、先進農家さんへの訪問視察、農業簿記や営農計画書の作成方法など、就農するためのいろいろな農業の知識を学ばせてもらうことができました。また、この世羅産業創造大学では、私達と同じ新規就農を目指す人たちがほかにもいらっしゃり、ここ世羅町で生涯つき合っていける友達ができたと

も何よりうれしいことです。

それと、ブドウの栽培技術を学ぶのに、ブドウ栽培を長年され、高品質なブドウをつくり続けていらっしゃる世羅幸水農園というすばらしい実践研修先で技術を学ばせていただいたこと、こんなにありがたいことはありません。ときには、技術だけではなく、農業者としてのアドバイスをくださったり、ブドウ以外の果樹の勉強をさせてくださったり、また、世羅に来て、あまり友達もいない主人をサッカーのチームに入れて仲良くしてくださったりと、世羅幸水農園の皆さんには何から何まで、感謝してもしきれない気持ちでいっぱいです。

(ラピアゲータン)

実践研修を通して、まだ日本語を勉強中なので、なかなか人とコミュニケーションがとれないことや、カナダで育った私にとって40度にまでなる日本の夏の蒸し暑さ、そして、作業になれない体の痛みなど大変なこともあります。一方で、ブドウの実がなるまでの成長過程を見ることが、まるで自分の子どもの成長を見ているようで、とても毎日が楽しいです。そして、何よりも外で働けること、最高です。

(ラピア幸恵)

こうして私たちは主に世羅産業創造大学、並びに世羅幸水農園さんのもとで研修を受けながら、新規就農に向けて一歩ずつ前に進んでいるところです。

正直、最初から最後まで、ほとんどの方から「農家は大変だから、絶対にやめたほうがよい」「給料も安定しないし、重労働だし、サラリーマンとして働くほうが絶対にいいから、農家だけはやめなさい」と言われてきました。また、私たち自身も、おいしいブドウをちゃんとつくれるのかどうか、ブドウで家族を養っていけるのかどうか、不安もあります。

いま現在も、ブドウが収穫できるまでの数年は無収入なため、決して余裕のある生活ではありません。ですが、主人と昨年の12月に生まれた娘と、家族3人で一緒にいられる毎日にとっても感謝し、そして、とても幸せを感じています。

長くなりましたが、ただ一つ言えることは、ブドウの専業農家になるという決断に後悔は一切ありません。私たちの夢は、今も、これからも、変わらずブドウの専業農家になることです。そして、今の自分たちがあるのも、今まで世羅町役場をはじめ、いろいろな方々の支えや応援があってこそです。そのことを常に忘れず、おいしいブドウをつくって、世羅町をブドウでもっと活性化させて、未経験だった私たちを受け入れてくださった世羅町、並びに私たちをこれまでずっと応援してくれてきた人たちに、いつか恩返しをしたいと思っています。

また、今日ここにお越しくださっている皆様にも、いつか私たちのブドウを食べていただけるように、これからも家族一丸となってもっともっと頑張りますので、皆様の応援、

よろしくお願いいたします。以上、御清聴ありがとうございました。

(知 事)

ラピアさん、本当にありがとうございました。99.9%でしたか、反対をされる中で、カナダのゲータンさんのご両親が反対されたというのは、日本に来るといふことで、異国で暮らされるといふことで分かるのですけれども、幸恵さんの御両親もブドウ農家になるといふと、反対されましたか。

(ラピア幸恵)

そうですね。父親は賛成だったのですけれども、母は会計事務所を辞めるんじゃないの一点張りで、サラリーマンのほうが絶対いいといふことだったのです。頑張って説得しました。

(知 事)

それまでは会計事務所働いていらっしやったのですか。

(ラピア幸恵)

はい。

(知 事)

ちなみに、ゲータンさんは、カナダでどんなお仕事をされていらっしやったのですか。

(ラピアゲータン)

石油工場です。

(ラピア幸恵)

工場の設備などを直したりする技術者です。

(知 事)

エンジニアですね。

(ラピア幸恵)

はい。

(知 事)

では、本当に農業には御縁がなかったのですね。今、お話の中でありましたけれども、ゲータンさんはブドウが好きだということでしたね。

(ラピアゲータン)

はい。

(知 事)

ブドウが好きだから、ブドウ農家になりたいというのは、かなり飛躍があると思うのですけれども、どうしてそこへ行ったんでしょうか。

日本で職業選択をするときに、それこそ英語の先生とか、実際にワーキングホリデーでやっていらっしゃいましたが、その英語の先生とか、何となく思い浮かびそうな職業ではなくて、どうして、ブドウが好きなのは分かるのですけれども、僕もタイとかメバルとかお魚が好きなのはすけれども、でも、漁師になりたいとはなかなか思わなかったのです。どうして、そう思われたのですか。

(ラピアゲータン)

外の作業が大好き。

(ラピア幸恵)

英語教師ももちろんいいのですけれども、外の作業がとにかく大好きで、中で働くのはあまり好きじゃなく、どうせ人生を変えるんだったら、今までと違う人生を送りたいと。日本に来るんだったら、こんなにおいしいものがあるのなら、自分の人生をかけたいということで、思い切ってブドウ農家、ということです。

(知 事)

世羅でおいしいブドウがつくられていて、よかったですよね。ブドウのおかげで、こうやって国際的なカップルのお二人が世羅に来て住んでいただけということで、ブドウをつくるということがこんなに広がるんだというのを感じられてうれしく思います。本当にブドウ農家になるという一歩を踏み出してやるのは大変な勇気だと思いますが、それをやってみると、例えば世羅町の役場の人がいいろいろ親身になって手伝ってくれたりとか、半分、宣伝が入っていたりしないですよ。無理矢理言わされていないですよ。

(ラピア幸恵)

大丈夫です。

(知 事)

そうやって親身になってやっていただいたり、幸水農園さんでもよくしていただいたり、何か道が開けていく。こうやりたいと思うだけじゃなく、本当にやっていったら、何となく周りを巻き込んで実現していく道が開けてくる。そういうすばらしい例ではないかと思います。それには、やっぱりお二人の強い気持ちがあって、これは本当に少ない例だと思いますが、これだけ大変な人生の転機を決断されてやられるというのは大変なことだと思いますけれども、それでも道が開けてくるというのはすばらしいと思います。

それこそ、農家になりたいと思う若い人がいても、いろいろなことをつまずくとか、できないと言う人もいるし、無理と周りの人も簡単に言うのですけれども、でも、きっとそんなことはなくて、一生懸命頑張ったら、助けてくれる人もいっぱい出てきて、前へ進めるのではないかと思います。

もちろん大変なのはこれからですよ。ブドウを植えて、実ができるまで大変な時間もかかりますし、おっしゃっていたように、それで販売をして生計を立てていくに至るにはまだまだ時間もかかると思うのですけれども、県でも就農支援をしていますし、世羅町も大変熱心に農業については支援をされていて、その農業等を通じて、世羅の人口減少に歯止めをかけたいと頑張っていらっしゃいますので、是非、皆さん、地域と一緒に、地域の応援も受けて頑張っていただければと思います。それでは、ラピアさん御夫妻に皆さんもう一度大きな激励の拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

(ラピアゲータン・幸恵)

ありがとうございました。

事例発表②

(知 事)

続いて発表いただきますのは、「世羅町で、楽しい子育てを考える会」実行委員長の徳光紗代さんです。

改めて徳光さんの御紹介をいたしますと、徳光さんは結婚を機に世羅町に定住されて、町外からの定住者に、「世羅町で子育てができて良かった」と言ってもらえるように子育てイベントなどを企画して、実施されています。

さらに役立ちたいという思いから、ベビーマッサージとか、ベビースキンケアの資格も取得されて、地域の子育てを応援するための活動をされています。

今日の発表のテーマは、「楽しい子育てと子どもとのスキンシップを大切に」です。それでは、徳光さん、よろしく願いいたします。

(徳 光)

こんにちは。徳光紗代です。私は8年前、安芸郡熊野町というところより、結婚を機に嫁いできました。そのときには友達もなく、知り合いもない状態で、第一子出産後に育児ひろばに参加したり、子育てサークルに参加して、ママ友をたくさんつくることができました。

5年前、「楽しい子育てを考える会」実行委員会ができました。楽しい子育てを考える会実行委員会は、子育て中の保護者と母子推進員さんや民生委員、ファミリーサポートセンター、社協、行政の方たちが世羅町で楽しい子育てができるように考えて、一人でも多くの方に世羅町で楽しい子育てをして良かったと思われる企画を考えています。

今までしてきた企画は、ファミリーフェスタです。ファミリーフェスタでは、ホールでの出し物、DANパネ団さんをお呼びしてブラックシアターをしていただいたり、去年は鈴峯女子短大の保育士を目指している生徒さんを、楽しい子育てを考える会のスーパーバイザーで広島大学教授の七木田教授、広島大学の富田先生に紹介してもらって、劇してもらいました。

ホールの出し物が終わったら、給食カフェ。給食カフェは、世羅町の保育所で実際に食べられているものを一般の方に試食してもらいたく、同じものをつくっていただいています。栄養を考えた食材や味付けなど、工夫いっぱいの給食となっています。

午後からは、各保育所、保育園の先生方による手づくりおもちゃを紹介しています。先生方がつくったおもちゃで遊んだり、簡単おもちゃをつくったりして、親子で楽しんでもらい、外ではシャボン玉遊びをしました。

去年は、いろいろな世代の方と触れ合ってもらいたく、福祉まつりと一緒にファミリーフェスタを行いました。今年はずっとたくさんの方に知って来ていただけるよう考え、チャレンジしていきます。

世羅町で楽しい子育てを考える会では、ファミリーフェスタ以外にいろいろな行事を行っています。子育てスマイルコンサートでは、世羅中学生の吹奏楽部の生徒さんによる合奏や、子どもたちが指揮の練習をさせてもらったり、音楽との触れ合いをさせてもらいました。実行委員も、保育士さんたちによるお家で簡単にできる手遊び、早寝早起き朝ごはんの体操を会場に来られた親子と一緒に歌って踊りました。中学生とも身近に感じられたコンサートとなりました。

そのほか、講座を開き、世羅中央病院の小児科の先生をお呼びして、お家でできる簡単ケアのお話をさせていただいたり、子どもが病気になったとき、焦らないようにお話をさせていただきました。

また、ほかに手づくりおもちゃを一緒につくって、パパもママも一緒に子どもと遊んだりしました。

今年度はNPプログラムを行い、限定人数で6回集まってグループワークをしていきま

した。このNPプログラムには、広島大学の富田先生がファシリテーターとして毎回悩みをみんなで考えられるよう議題を考えていただきました。

また、子どもたちは託児をして預かっていただいて、ママの時間を設けました。その託児にかかわっていただいたのが、保育士の先生方と世羅高校の福祉科で子どもに興味のある方を募集して、託児体験をしていただきました。初めての子どもに迷ったり、どうしたらいいのか分からなかったりですが、大変だったけど、楽しかったとみんなに言っていただけました。高校生のように貴重な体験ができて、そこから保育士さんを目指して、世羅で働いていただいたり、世羅で子育てする楽しさを知っていただけたのではないかと思います。もっとたくさんの方の高校生の方に託児体験をしてもらい、子どもの大変さ、かわいさを知って、世羅で子育てをして、大変でも相談できる場所、相談できる人がいることを知ってもらえるようチャレンジしていきます。

この講座を開くときに町外から講師をお呼びしているのですが、楽しい子育てを考える会を3年していて、自分でもママやパパが楽しい子育てを考えることができないかと思い、2年前にベビーマッサージの資格を取得しました。親子のコミュニケーションや触れ合いを伝えていき、子どもの心身の発達を促し、精神を安定させ、運動機能や内臓機能が高まることをお伝えしています。ベビーマッサージとランチを一緒にすることで、ランチタイムには悩みを相談したり、そこからママ友の輪ができたりして、癒されるママを見ると、とても癒されます。また、世羅町で子どもを連れてランチに行ける場所があり、ママさんからは世羅は子育てしやすいですねとか、赤ちゃんを連れていても気にしなくて済むので、ゆっくり御飯を食べることができました、や、いつも家で子どもと2人で御飯なので、みんなで食べるとなぜかおいしいですね、などの声をいただいています。そのうれしい言葉をベビーマッサージを通じて聞けて、うれしく、半年後にはベビースキンケアの資格を取得し、ベビータッチスペシャリストとして活動をしています。

ベビーマッサージも、ベビースキンケアも、お子様の肌に触れてコミュニケーションを深めることをお伝えし、ときにはパパさんの参加もあり、夫婦で子育てをして、子育ては大変だけれども、楽しさはたくさんあるということを伝えていくように、私もいろいろなイベントなどを考えてチャレンジしていきます。

先日、子育てに興味のある子育て中の保護者と支援者さんと、何でも話そうというグループワークに参加させていただきました。そのときに、保護者からは、ベビー用品の新品に近いものをもらってくれる場所がほしい、午前中は子育て広場があるけど、午後には子どもと行けるプレイルームみたいなのところがあったらいいなという意見が出ました。私も、買っていたけど使っていないものがある。けど、捨てるにはもったいない。リサイクルする場所とかあればいいなと思っていたのと、一人目を子育て中に、外遊びができないときに、みつぎとか府中まで遊びに行ったりしていたなと思い、世羅のあいている施設に、フリースペースで、誰でも簡単に利用できる場所を探しています。そこで、赤ちゃんからおじい

ちゃん、おばあちゃん、世代関係なく集まり、情報交換できたらいいなと思っています。

まだ場所探しが始まったばかりなので、これからいろいろな人たちの協力のもと、世羅町民全員が集まれるような場所をつくることにチャレンジしていきたいと思います。

本日はありがとうございました。

(知 事)

徳光さん、ありがとうございます。こうやって見ると、世羅町の人口は約1万7,500人ぐらいだと思うのですけれども、すごくたくさん子どもがいるように思えますよね。これも、徳光さんをはじめとして、楽しい子育てを考える会の皆さんの活動が活発で、こうやって赤ちゃんたちが集まってきているという感じですね。

(徳 光)

そうですね。チラシとかを配っていると、広報に載っている赤ちゃんの何人かは、広報で名前を見たよという子が結構たくさん来ています。

(知 事)

本当に活発に活動をされていて、ファミリーフェスタをやって、ファミリーフェスタの中でもいろいろなイベントがいっぱい詰まっていて、給食とか、いろいろな遊びとかあって、コンサートをやって、講座をやって、NPプログラムというのは、これまたいろいろ中身があると思うのですけれども。

(徳 光)

NPプログラムも講座の一つです。一昨年は、中央病院の先生を呼んだりした講座になったのですけれども、昨年はNPプログラムという講座をやりました。

(知 事)

なるほど。これは年に何回かされるわけですね。

(徳 光)

はい。

(知 事)

ベビーマッサージとか、ベビースキンケアの資格も取られて、さらに、何でも話せるグループワークに参加したと思ったら、そこで出てきた意見があって、いい場所があったら探したいと。今、場所探しをしていると。で、巻き込んでいる人は、保育士さんとか、鈴

が峰女子大のみんなとか、高校生とか、中学生とか、広大の富田先生とか、七木田先生とか、一体どこまで巻き込んだら気が済むんだらうというぐらいすごいですね。というか、忙しくないですか。

(徳 光)

忙しくないと自分の調子が出ないので、それが楽しいです。

(知 事)

そうですね。本当に活発に活動されていて、そのおかげというか、世羅で子育てしやすいと言ってもらえるということが起きるし、今言ったようないろいろな人の巻き込み、サポートが得られていく。例えば七木田先生とかも大変忙しい先生で、どこにでもほいほいと行くわけではないと思うのですが、こうやって手伝っていただいたり、紹介していただいたり、すばらしい力だと思います。子育てしていても、自分でこもってしまうと寂しいと思って、思うだけだとそれで終わってしまうのですが、寂しいからみんなが集まろうよと声をかける人がいるから、そうやって輪が広がっていく。思っているだけでなく、集まるといいなと一滴水を落とすと、そこから輪が広がって、さらにほかの輪と交わったりして、だんだんとそれが広がっていく。で、さざ波になって、ついには大きな波になって、世羅町はいいところだとなっていくというのは本当にすばらしい力だと思います。

徳光さんは特別に活発な方だとは思いますが、誰でも一歩出ることによってできるのかなと。必ずしも自分で全部仕切っているというわけではなくて、こうやってサークルとか、講座に参加して意見を言ったりとか、そういうことでも変わってくると思います。

ちなみに、熊野から世羅に来て、冷たくあしらわれたり、そういうことはなかったですか。

(徳 光)

世羅に来て、世羅弁が分からなかったです。とげみたいものがささったことを熊野では「すいばり」と言うんだけど、「そばり」とか言われて、「それは何」というのでもめたこともありました。

(知 事)

そういうところも、多分世羅町のオープンなところですね。さっきのラピアさん御夫婦もそうだと思うのですが、外から来られた方をオープンに受け入れるところがあって、また活躍できるのではないかというふうにも思います。「そばり」と「すいばり」でもめることはあるかもしれませんがね。

放っておけない徳光さんではないかと思いますが、ちょっと放っておけない力を発揮す

ると、大きな社会の力になっていく。そんな例ではないかと思います。徳光さん、ありがとうございます。これからも世羅町の子育てのために、御活躍をお祈りしております。皆さん、もう一度拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

(徳 光)

ありがとうございました。

事例発表③

(知 事)

それでは、次の発表に移りたいと思います。高校生の発表です。世羅高等学校2年生の景山鈴音さん、中山朝日くん、東杏樹滯さんの3人です。

改めて3人の御紹介をしたいと思います。景山さん、中山くん、そして東さんが通われている世羅高校は、もちろん知らない人はいない、また、全国でも高名な高校で、駅伝はもちろん有名ですけれども、現在、販売中のランニングウォーター、例の梨の味がするランニングウォーターをはじめとした、地域と連携した新たな商品開発であるとか、あるいは地域の福祉施設へのボランティア活動などを通じて地域の活性化に取り組んでいらっしゃいます。

今日の発表は、「Challenge～地域と共に～」です。それでは、景山さん、中山くん、東さん、よろしく願いいたします。

(事例発表者(景山))

私たちは、「Challenge～地域と共に～」というテーマのもと、世羅高校で挑戦している活動についてまとめました。

世羅高校には3つの科があり、私たち自身もほかの科について知る機会がなかったのですが、今回このような会で発表させていただく機会を得ることができて、とても光栄です。

私たちが取り組んでいることは、部活動やいろいろな科の地域とのかかわりを大切にされた活動です。

今日は、大きく分けて二つの科と部活動について紹介します。

(事例発表者(中山))

まずは、世羅高校の専門科の一つである農業経営科についてです。農業経営科には二つの類型があり、今年で完成年度を迎えます。

今日は六次産業類型について紹介します。まず、第六次産業とはどういったものなのか、簡単に説明します。第六次産業とは、生産を行う第一次産業、加工を行う第二次産業、そ

して、販売を行う第三次産業を組み合わせ、生産から加工、販売まですべて行う産業活動のことです。

六次産業類型の取組としては、農産物の生産から加工、販売までの過程を学習し、ブランド商品の開発などの農業経営を身に付けるため学習しています。今年度完成した食品製造実習室は、食品加工の幅を広げる大きな基盤となっています。試作品として、ブルーベリージャムやイチゴジャム、パウンドケーキやビスケットなどを製造し、販売につなげています。ほかの施設として、無菌室や制御温室などがあります。他団体とのかかわりとしては、地域の六次産業への貢献や、地域営農類型とのつながりを持った活動など、様々なことを行っています。

地域営農類型が脱温暖化プロジェクトせらと連携して行っている取組の一つに、生ごみ堆肥プロジェクトというものがあります。給食センターで出た生ごみを農場で堆肥にして活用しようという活動です。昨年度の3年生が始めて、今年で2回目になります。六次産業類型とのかかわりとしては、生ごみ堆肥プロジェクトでつくられた堆肥を使ってブルーベリーの栽培を行って、それを加工、販売するなど、密接なかかわりを持っています。

(事例発表者(東))

続いて、生活福祉科についてです。生活福祉科の最終目標としては、三冠王と呼ばれる食物検定、被服検定和服、被服検定洋服の各1級の取得があります。生活福祉科は学年ごとに活動が発展していきます。1年次では、全員で様々な授業や検定などを受けます。2年次では、生活経営類型と生活福祉類型に分かれます。経営類型ではサービス接遇検定や秘書検定を受け、企業の事務作業や接待の基礎知識、応用能力を養います。福祉類型では、訪問介護員2級試験などを受け、介護実習のような実践を通して看護系のスキルを養います。3年次では、各目標に向けてラストスパートをかけています。

部活動では、現在、運動部が14、文化部が8の全部で22の部が活動しています。各部ともに目標を立て、日々の練習や活動に精を出しています。昨年度の成績は、陸上競技部の全国高校駅伝大会での男子5位、女子33位をはじめ、たくさんの功績を残しています。また、陸上競技部以外にもたくさんの部活が健闘しています。

(景山)

最後になりましたが、各個人ができる最善の取組をして、これからの世羅町、広島県の発展に貢献すること、日々地域の方々に支えられているという自覚を持ち、感謝を忘れないこと、異文化交流を通して、海外と日本の違いを学ぶとともに、日本のすばらしさを伝えること、広島に生まれ育ったことを誇りに思い、原爆の悲惨さ、命の尊さについて忘れないような人になっていくことなど、世羅高校で過ごしていく上で必要なことを学んでいきたいと思います。

以上で発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

(知 事)

世羅高校2年生の3人、ありがとうございました。3人とも世羅の出身ですかね。

(景 山)

はい。

(知 事)

ありがとうございます。世羅高校でのいろいろな活動というか、頑張っていることを紹介していただきましたけれども、ここでちょっと質問をしてよろしいでしょうか。いつも高校生とかに来てもらおうと聞いてみるのですけれども、これから3年生になって、その後は高校を卒業して次の進路ということなのですかけれども、そのときに大学に行くか、あるいは就職するかは別にして、広島に残りたいと思っていますか。外に出たいと思っていますか。景山さんから、どうですか。

(景 山)

私は大学に進学しようと思っているのですけれども、目指している大学が岡山にあるので、私の目指している学部は教育学部で、学校の先生になりたいと思っていますので、教員試験に合格して教員免許がとれたら、また広島に戻ってこれたらいいなと思っています。

(知 事)

気を使ってくれて、ありがとうございます。

中山くんはどうですか。

(中 山)

僕は、広島県内の大学に行こうと思っています。そこで理学療法士の資格を取って、広島が大好きで、大好きで仕方ないので、ずっと広島に住んでいようと思います。

(知 事)

僕はあおっていないですからね。

東さんはどうですか。

(東)

今、行っているのは世羅高校の生活福祉科で、卒業とともにホームヘルパーの資格が取

得できるので、そのまま3年生を卒業したら、卒業とともに施設のほうへ、ホームヘルパーとして仕事をしていきたいと思います。

(知 事)

無理矢理言わせているような感じで申し訳ないのですが、今まで大体聞いているのですが、これまで40～50人ぐらい高校生が出てきてくれています。最初は3対2ぐらいで県外に出たいという人が多かったのですが、最近は、累計すると6割ぐらいで広島に残りたいという人が増えて、毎回聞くたびに頼もしいなと思うのですが、私は、県外に出てももちろんいいというか、県外に出て、いろいろ見聞を深めることも大事だと思いますし、日本、あるいはほかの地域で貢献するのもすごくいいことだと思います。でも、いつまでも世羅町のことを大好きでいるとか、広島県のことを大好きでいるという気持ちを持ち続けてくれるとうれしいと思います。こういうみんなの活動を見ていると、そういうふうにもってもらえるのではないかと、ちょっと期待ができます。そういうお答えだったので安心しましたが、世羅高校は各方面で活躍していただいていますけれども、これからの世羅町や広島県を担ってくれる若者が、今日お昼を食べたときにはものすごく元気いっぱい、ここにきて緊張しているのが僕はよく分かるのですが、今日頑張ってお話していただいた景山さん、中山くん、東さんの3人に、応援の意味を込めてもう一度大きな拍手をお願いします。ありがとうございました。

事例発表④

(知 事)

最後の事例発表になります。世羅西中学校2年生の石橋夏海さんをお願いします。

石橋さんの御紹介です。去年の8月に、中学生子ども議会で提案されて実現したハワイでの海外研修に参加され、多くのことを学んできたそうです。また、日々の学校生活においても、自主性を高めて、自身の成長につなげようと7つの習慣に取り組んでいるということです。

今日の発表のテーマは、「中学生海外研修への参加と自主性の向上」です。それでは、石橋さん、よろしくをお願いします。

(事例発表者(石橋))

世羅町立世羅西中学校2年の石橋夏海です。よろしくをお願いします。

世羅町の中学生は、自主性を発揮して元気に育っています。世羅町では2年前から中学生子ども議会が開催されています。町内3つの中学校の代表5名ずつが子ども議員となって出席し、町長をはじめ、町行政の代表者に対して意見を述べたり、質疑を行ったりしま

す。

その中で一昨年提案された中学生海外研修が昨年の夏にスタートしました。私は、その中学生海外研修に挑戦し、6名の代表の中の1人として、6日間ハワイの研修を体験してきました。

海外研修では、主に二つのことについて学ぶことができました。一つ目は、自主的にコミュニケーションを取り、人間関係を築くことの大切さについてです。これは、自分から話しかけると、相手も心を開いて話してくれると感じた場面が多くあったからです。また、ホストファミリーと一緒に過ごすときも、私から話しかけることで、会話も弾み、よい関係になれたからです。

二つ目は、広い視野を持つことの大切さについてです。これは、日本とハワイの共通点や相違点を見るとき、どうしてそうなのかと背景を聞いたり、考えたりすることで、とてもたくさんを知ることができ、勉強になったからです。また、日本を離れて、今まで気付かなかったふるさとのよさ、大切にしなければいけないところについても考えることができました。

私はこの経験を生かし、より広い視野を持つ自分になるためにも、周りをよく見て、自主的に行動していきたいと思います。

また、この中学生海外研修の報告を町や学校で行うことを通して、私の見たこと、聞いたこと、肌で感じたことを広くたくさんの方々を知っていただき、また、お世話になった皆様へ感謝の気持ちをあらわすことができたと思います。

町内3つの中学校の校訓の中には共通した言葉があります。それは、「自主」です。私たちの通っている世羅西中学校の校訓は、「自主 自律 創造」です。本校では、日本一自主的な生徒会を目指して自主性の向上に努めています。その取組により、本年度世羅西中学校は広島県教育奨励賞を受賞しました。本校では、「せらにし学びの7か条」や「7つの習慣」について取り組んでいます。7つの習慣については、月に1回開催する発表朝会で、その月に重点とする習慣について、各学年の代表が全校の前で発表し、聞いている生徒はそれを評価します。私も1年生のとき、「第7の習慣 刃を研ぐ」について発表したことがあります。刃を研ぐとは、自分を磨くということで、今の自分を高めるためには何をすればいいのかを考えたり、今までの自分を変えていくためにはどうしたらいいのか、自分を見つめ直す機会になりました。また、1年生のときには、この7つの習慣が十分には理解できていなかったのですが、2年生が終わろうとしている今、この7つの習慣がいかに中学校生活の基盤になっているかが分かるようになってきました。いよいよ4月からは3年生になります。世羅西中学校のリーダーとして、一人一人が持っている理想の自分、学校というものを研ぎ続け、真に価値あるものを高めていき、日本一自主的な生徒会をつくるために貢献することを決意しています。

今日は湯崎知事さんにお会いできた上、このような貴重な時間をいただき、ありがとう

ございました。

(知 事)

ありがとうございました。ごめんなさい、生徒議会じゃなくて。

(石 橋)

子ども議会です。

(知 事)

子ども議会ですね。子ども議会で提案のあったことで、海外研修を実際に実現された町もえらいと思うのですけれども、これは、代表の一人として行かれたのだと思うのですけれども、どういうふうに使われたのですか。

(石 橋)

面接試験等がありました。

(知 事)

では、私は行って、こういうことをやります、こういうことを学びます、みたいな、そんなことをお話しされて選ばれたということですか。

(石 橋)

はい。

(知 事)

実際に行って、いろいろ感想も教えていただいたのですけれども、一番の収穫はどんなことだったんでしょうか。

(石 橋)

日本にいたら知らなかったことなのですからけれども、海外に出て、はじめて日本との違いに気付けたことだと思います。

(知 事)

日本のよさも改めて感じたというお話でしたね。

(石 橋)

はい。

(知 事)

実はわざと難しい質問もしているのですけれども、今の発表も、質問の受け答えも含めて、中学生と思えないぐらい立派ですよ。

うちに小学校5年生がいるのですけれども、あと何年かでこんなになってくれるとは思えないのですけれども、7つの習慣も頑張っていて、みんなの前で発表するというのを全員が順番でするのですか。

(石 橋)

はい。作文を書いて、各学年で代表を決めて発表します。

(知 事)

今日もこういう場で皆さんの前で発表するのも大変だと思いますけれども、原稿も見ずにお話しされて、さっき話したときもよどみなくしゃべっておられて、これまでの訓練が効いて役に立っているのではないかと思います。中学校も大変すばらしい教育をされていると思います。今は若い子がしっかりしていないとか、それこそ自主性がないとか言われていますけれども、石橋さんを見ると、まだまだ大丈夫だな、頑張っていてほしいなと思います。

ちなみに、石橋さんにも聞いていいですか。将来、どういう道に進むか分かりませんが、広島に残りたいですか。

(石 橋)

私は広島に残りたいです。

(知 事)

また無理矢理言わせたような感じですが、でも、外の世界を見ることも大事です。ラピアさんはカナダから来ていただいています。そういうこともありますから。僕も東京に二十数年いましたので、外の世界を見ることもいいです。でも、この広島にいたいという広島を愛する気持ちをずっと持っていただけるとうれしいと思います。この未来有望な石橋さんに、もう一度激励の大きな拍手をお願いします。ありがとうございました。

(石 橋)

ありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。以上で予定されておりました事例の発表は終了となります。皆さん、すばらしい発表を本当にありがとうございました。

閉 会

(司 会)

それでは、ここで湯崎知事に本日のまとめをお願いいたします。

(知 事)

ありがとうございました。発表者の皆さん、この場で自らの挑戦を発表していただき、ありがとうございました。

お話を聞いていただいて、冒頭に私が申し上げた意味が御理解いただけたのではないかと思います。今日は特に、その中でもかなり高いレベルというか、かなり突っ込んでいろいろなことをやっていらっしゃる皆さんで、自分はいそこまでできないと感じられるかもしれませんが、でも、僕はそんなことはないと思います。大人の3人は、ごく普通の皆さん、特別な方々ではないと思うのですけれども、ちょっとしたことを放っておかなかつたりとか、自分がこうしたいと思うだけではなく、実行してみる。動いてみる。そのことによって大きな違いを生んでいるのではないかと思います。

私は、お昼の間に徳光さんと下打ち合わせをしていて、質問しますよと言ったことを質問しなくて、しまったと思っているのですけれども、世羅町で子育てをされていてよかったこと、いいことは何ですかと、それを聞きますからお願いしますと言っていて聞くのを忘れていたのですけれども、やっぱり、家のすぐ周りに田んぼがあって、池があって、山があって、子どもたちが気がつく山の上に駆け上がって、泥だらけになって遊んでいる。こういったことは、都会では絶対に経験できないリアルな体験だと思います。土と触れ合って、思い切り体を使って遊ぶ。それは心の健康にもものすごくいいことだと思います。世羅町自身もそうなのですけれども、過疎、人口も減っているし、あるいは農業というのは今、大変厳しいというふうに思われています。ただ、見方を変えると、そういうすばらしい子育てができるであるとか、あるいは、それこそ今、農業に大変関心がある人たちはたくさんいるけれども、世羅町のように受入態勢をしっかりとつくって、実際にこうやって受け入れることによって外から人がやってくる。今日の大人の3人も、いずれも世羅町外から来られた方で、ここにしっかりと根を張って活動されていらっしゃいます。そういうことが起きてくる。それも、ほかの人がやっていることではなくて、まさに一人一人の方が自分ができることをやることによって、そういうことにつながっているのではない

かと私は感じます。これは、どの地域でも、それをいつも感じるので、今日も本当に素晴らしい発表をしていただいて、本当に感謝しております。また、中学生、高校生も、今日は4戦4勝ということで、ありがとうございました。皆さん、地域で応援しているので、これからも頑張ってくださいと思います。

職場であるとか、学校であるとか、一人一人いろいろな役割があります。その中で今日とは違った明日、ちょっとずつよくしようとか、あるいは、これまでやらなかったことを明日やってみよう。その積み重ねによって素晴らしい未来が、世羅町そして広島県に開けてくると思いますので、今日のお話を糧にして、また明日からみんなでいい世羅町、広島県づくりに頑張っていきたいと思います。

今日は長い時間、皆さん、どうもありがとうございました。もう一度、発表していただきました皆さんに感謝の意を込めて大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

そして、今日御参加いただきました皆様、本当にありがとうございます。こういうのをやっているとはよそから見ただけではなくて、こうやって来ていただくだけでも一歩違うと思いますので、長い時間にわたって御清聴いただき本当にありがとうございました。皆様御自身にも拍手をお願いします。ありがとうございました。

(司 会)

以上をもちまして「湯崎英彦の地域の宝チャレンジ・トーク」を閉会いたします。御来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

なお、御来場時にお渡ししたアンケートと地域の宝ネットワークの申込書を出口で回収いたします。どうぞよろしくをお願いいたします。

また、地域の宝ネットワークにおいては、フェイスブックによる情報の交流も行っておりますので、是非皆さんも御参加ください。

本日は御参加をいただき誠にありがとうございました。どうかお気をつけてお帰りください。